



社団法人

# 日本演劇興行協会

---

会報—No.39

*Japan Association of Major Theaters*

## 若い観客の育成は、

## 劇場の最重要課題です

株式会社博多座  
代表取締役社長

芦塚 日出美さん



### 演劇を盛り上げる機運高まる

#### ● 経済界のチャリティー歌舞伎

「経歴をご覧いただければわかるように、私、演劇とは全く無縁のところまで働いてきましたので…」

そう謙遜するのは、平成二十二年六月から博多座代表取締役社長に就任した、芦塚日出美さん。九州大学工学部電気工学科卒業、以来九州

電力で活躍してきた、一見「固い」経歴の持ち主だ。

「休みの日に映画を見たり…あの頃はミュージカル映画が全盛期で。若いころはオールディズなんか聞きましたね。あとは仕事で海外に行ったときに、向こうの有名なミュージカルを見に行ったりしたことはあります」

観劇について質問すると、「うーんうーん」となるばかり。だが思い切つて質問を変え、「では学芸会などで、演じてみた経験は？」と問うと、意外な答えが返ってきた。

「中学校の時に演劇部兼弁論部のようなところに所属しまして、三菱の劇場に出ました。確かに狂言みたいなものをやりましたね」

ここからさらに驚くべき話がある！  
「あとは福岡チャリティー歌舞伎で、股旅ものを踊ったり、『勸進帳』の富樫もやりました」

福岡チャリティー歌舞伎とは、一九五九年に「福岡名士劇」として始まり、一九八四年に一度途絶えたが、二〇〇八年から名を改めて復活したものだ。地元各界を代表する人々が多数参加し、尾上菊五郎さんの監修、市川團蔵さんの演技指導の下、忙しいスケジュールを繰り返して練

習を重ね、博多座の舞台上でプロさながらの歌舞伎を披露する。

「小唄の稽古の際に、まあみんな集まりますから、おさらい会をしようよということになり、それがだんだん話が大きくなって…という感じで、チャリティー歌舞伎をやるうじやないかと。やっぱり一度ライトを浴びると、みんな気持ちよくなっちゃうんですね(笑)。次は俺も出たい、来年はどうしよう、福岡の経済を引っ張る忙しい人間ばかりですが、みんな積極的に関わっています」

芦塚さんはさらりと話すが、地元経済をになう経済界の名士たちが、当たり前のように小唄の稽古に通い、そこが仕事を離れた交流の場になっているというのは、芸事の盛んな福岡ならではの。小唄だけでなく、踊りや清元など、それぞれが持っている芸を持ち寄れば、歌舞伎を上演出来するというのがすごい。

「こういう催しをやることによって、経済界が博多座に愛着を感じて、『もっと演劇を盛り上げよう！』となるのが、本当にありがたい。普段劇場にいらつしやらない方も『うちの社長が出るなら見てみようか』と、とにかく劇場に足

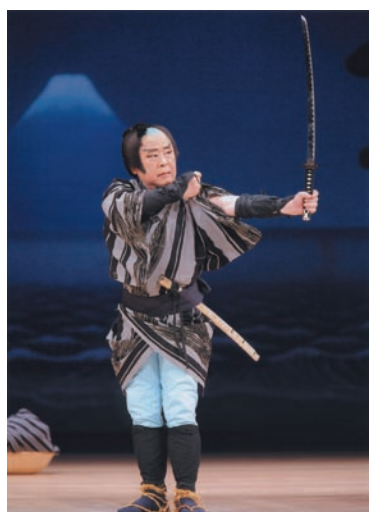
を運ぶきっかけになる。自分たちが楽しみ、チャリティーにもなり、博多座ファンを増やすきっかけにもなる。ああ、考えてみたら、これは非常にいいイベントですね(笑)」

## 九州新幹線全線開業を機に

### もつと演劇ファンを育てたい

演劇、特にいわゆる商業演劇にとって、観客の高齢化は、どこも抱える頭の痛い問題。博多座もその例に漏れない。

「東京などから来る、有名な演目の場合でも、そこに頼り切っているのはダメ。今年の七月、舞台『大奥』を上演した際、テレビでも『大奥』を再放送してもらい、その相乗効果があつて大変盛り上がりました。やはり宣伝が大事。従来のチラシやポスターなどに加え、地元TVとのタイアップなども、もつと積極的に考えていくべきだと感じました」



「福岡チャリティー歌舞伎」より

若い観客にまずは芝居を見てもらおうと、三階席を学生だけの特別料金にしたり、地元の小中学校に対し『学校行事として観劇を』というアピール活動も行っている。

「こうした学生料金は、その回ごとに考えれば決して収益アップになるものではありません。しかし若い人が演劇の面白さに触れて、その後も見に来てくれるようになる。そうした若い観客を育てることは、今後の博多座運営を考える上で、最重要課題と言つてもいいくらい、大事なことなのです。『九州の演劇の殿堂』とも言われる博多座ですから、時には損得だけでなく、演劇界を盛り上げる活動にも、力を注がなければなりません」

また二〇一一年三月には、鹿児島まで新幹線が通り、博多―鹿児島間の行き来が飛躍的に便利になる。

「この開通式には、中村勘三郎さんをお招きして式典を行い、博多座で『桜壽博多座大歌舞伎』公演を催します。新幹線が出来る、博多座で夜の部をご覧になつても、鹿児島まで帰れるようになる。九州南部のお客様に『博多座で芝居を見よう』と、気軽に越えたいだけできるようになるのが、何よりも嬉しいですね」

そのためにも、魅力ある演目を用意することが大事。東京からどんな公演を呼ぶのかはもちろん、自主公演にも力を入れていきたいと、芦塚さんは話す。

「二〇一〇年は五月に、『佐賀のがばいばあちゃん』を、原作者の島田洋七さん主演で上演し



「福岡チャリティー歌舞伎」より

ました。この原作はドラマや映画、舞台にもなっています。島田洋七さんご自身が主演というのは、博多座が初めて。収益的には万々歳というわけにはいきませんでした。ご覧になつたお客様の満足度は高く、こうした博多座ならではの自主公演で、お客様にもつと喜んでいただきたいと思います」

芦塚さんは、さらにサービスの面でもいつもの努力が必要だと考えている。

「場内のゆったりした雰囲気、芝居への期待感を高める、劇場の空気のようなものも、お客様への大事なサービス。そうした部分も含めて、『博多座は良いね』と言われる劇場づくりを進めていきたい。私も終演後ロビーに立ちますが、お客様の表情を見れば、今日の出来はすぐわかる。どなたにも『今日は楽しかった』と満足して、劇場を後にしていただけるよう、まだまだやるべきことがたくさんありますね」



# 難波から大阪上本町へ——新歌舞伎座



難波から大阪上本町へ——平成二十二年夏  
 新歌舞伎座は「大阪上本町駅」に直結して建築された複合ビル「上本町YUFURA」に移転し、新たな一步を踏み出しました。桃山風唐破風造りを模した独特の外観で親しまれた「ならば新歌舞伎座」が半世紀の歴史に幕をおろし、一年と二ヶ月。その間、新劇場を待ちわびるお声を、多くの方々からお寄せいただきましたことは、何よりの励みでございました。

柿葺落興行は、旧劇場でも縁の深かった市川猿之助丈の総監修による「松竹花形歌舞伎・二十一世紀歌舞伎組公演」、十月は「GAC KT主演・眠狂四郎無頼控」、十一月は「北島三郎特別公演」と新劇場の幕開けにふさわしいバラエティーに富んだラインアップで門出を迎えました。さらに「上方落語名人撰」や「中島みゆ



きT O U R 2 0 1 0」など、従来上演してこなかったジャンルの公演もお届けし、新歌舞伎座を訪れるのは初めてとおっしゃるお客様にも多く足を運んでいただいております。

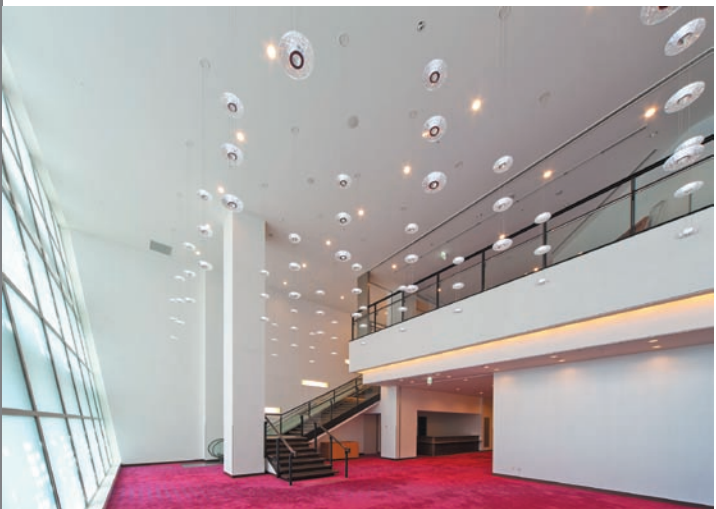
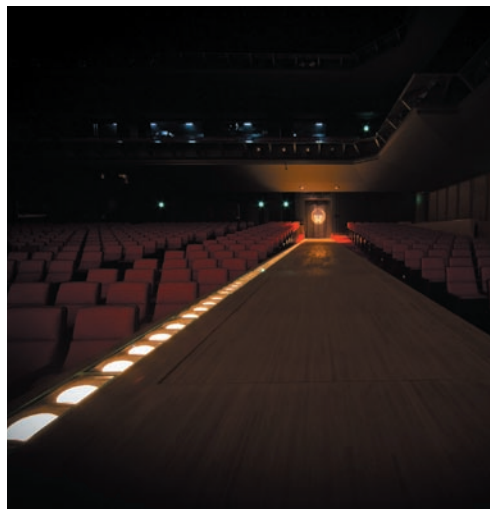
新劇場は、総客席数一四五三席、なんば新歌舞伎座の特長であった、演者と観客の距離が近く臨場感あふれる空間を継承し、間口二十八・二メートル、奥行二十二・四メートル、横長で奥行きの浅い三層構造の客席です。開場以来、「想像以上に舞台を間近に感じ、一体感が共有できる」と驚きとお褒めの言葉を頂戴しております。



また、舞台構造は廻り舞台と花道を備えた本格的な伝統的スタイルのプロセニアム形式で間口二〇・〇メートル、高さ八・二メートルと間口の広さが特長です。舞台設備には、なんば新歌舞伎座にはなかった廻り舞台を採用するだけでなく、廻り舞台内にも三基の迫を設け、演目に応じて着脱可能な可動式の花道にはすっぽん迫を設置、舞台表現の自由度が高まり、より豊かな演出が可能となっています。吊物機構・音響・照明についても最新の設備を採用し、古典芸能から現代演劇、歌謡ショー、ミュージカルなど多様な演目に対応しています。

さらにバリアフリーにも配慮し、最寄り駅の改札から劇場まで段差なく移動することができるよう、エレベーター・エスカレーター・スロープを設置しております。旧劇場では多くのお客様に不便をおかけしていた女性用のトイレは二倍以上に増設したことで、大幅に混雑が緩和いたしました。

新しいビルの外壁にはなんばの新歌舞伎座で永らく愛されてきた唐破風と芝居小屋の象徴である櫓が現代的にアレンジ、デザインされました。新たな地に移りましても、常に大衆に愛される劇場を目指す、というコンセプトは変わらず、時代とともに移り変わる人々のニーズに対応しながら、理屈抜きで楽しめる公演をテーマに、これからも一歩一歩、歩んでまいりたいと考えております。



# 耳で観る芝居とは

私たち有志数名が、ボランティアのつもりで、イヤホンガイドの創始にかかわったのは、昭和五十年十一月のことで、すでに三十余年の昔となる。

最初は借り手もすくないし、存続さえも危ぶまれたが、只今では、およそ二人に一人は使っていただけの日もあって、ホツとしているところである。

そのかわり、影響するところや、責任もまた重大なので、心を引きしめている今日のごろだが、たとえば、お客さまの質問があれば、可能なかぎり回答するなどのサービスにも、キメこまかく努めなければならぬ。

これが意外にも、当方の勉強になる場合があつて、この仕事の役得といえることもある。

たとえば、質問に曰く、  
「菅原道真が実在したことは、よく知られた事実だが、奥さんはどうなりましたかね？」

これには弱った。たしかに『菅原伝授手習鑑（すがわらでんじゆ・てならいかのみ）』というお芝居は、ある。ここには「奥方園生（おくはらゐのせい）の前」という夫人は登場するのだが、相手が芝居では、フイクションということもありうるから、芝居に出るからといって、ただちに実在したと断定はできない。

けれども、解説を業とする以上、そういう質問には用意がなくてはならない。そこで調べたところ、たしかに夫人は実在したらしく、お墓まで存在することがわかった。

けれども、そのお墓は、なんと奥州（おくしゅう）（岩手県）東磐井郡東山町（ひがしやまのまち）（現、一関市）なのだという。

菅公の左遷は、理由はよくわからないが、事実上、罪人扱いだったと伝えられるから、夫人は共に逮捕された筈だが、それが追求を免れ、奥州まで、落ちのびたというのである。

平安時代の刑罰がどのようなものか、私には



イヤホンガイド解説者 小山観翁

よくわからないが、とにかく夫人は、岩手県まで逃げのびたらしい。

このような人が逃げて来た場合、これをつかまえて手柄にするのが、当時の慣例であろうに、当時の地元住民はそれをしなかったのだ。奥方は村人に尊敬され、大切に（かま）匿われ、歿後は丁重



に葬られ(延喜六年〓九〇六)しかも祥月命日などには、懇ろな供養が営まれたという。

その当時、夫人が、どのような形で彼等の前へ現われ、どのような形で庇護を求めたものかはよくわからないが、たぶん、粗末な服装で、下人のごとき姿だったと思われる。もしこの人が、贖者だったとしても、多分、真贖はわからなかったであろう。

夫人にしても、村人達が、もし敵方へ廻れば、命の保障はない。もしやすると、夫人を匿ったということ、村人は罰せられるかもしれない。こうした厳しい環境の中で、夫人に手をさしたべた当時の村人達は、万一の時のことを覚悟して行動したに相違ない。

さらに驚くことは、去る平成十七年九月十一日に、村人の子孫たちは、はるばる九州太宰府天満宮から神職の特別出張を得て「菅原吉祥女御神忌千百年祭」を、その墓前で齋行しており、これに七百人が参列したとあるから、まさに感動ものである。

……こういう話を、幕間の説明(通称前説)に挿入したりすると話が締まる。お客様の間のおかげで一つ勉強になり、中味も濃くなって、双方ともにめでたしである。

開演に先立って、幕間などを利用しての説明は、昔の活動の弁士になぞらえて「前説(まえせつ)」と呼んでいるが、この前説は、劇中の説明よりも、やや突込んだ内容が求められる。この時間帯にイヤホンガイドを聴こうというお客さんは、くわしい人が多いからである。

たとえば『積赤雪関扉(つもるこいゆきのせきのもと)』は、古典舞踊の大曲として人気の高い出し物だが、これには隠し味というべきものがある。この前説は、平安の昔「古今和歌集」の序文に「大伴黒主は、そのさまいやし。いわば薪負える山人の花のかけに休めるがごとし」と評された大伴黒主を主役とする舞踊であることを説明し、開始部は、紀貫之が序文で批評した黒主のイメージを、いかに巧みに表現したかを見るとよろしい旨を述べる。

このことによって、浅窓幕を切って落した瞬間、観客の視線は、薪を足もとに置き、一服つけて休んでいる下人の姿が、実は大伴黒主である、と了解するのである。

天明四年(一七八四)を期して、これまで上方優位であった出版物の数が逆転し、江戸が優位に立った。これを裏書きするように、歌舞伎にも、江戸の擡頭が著しくなる。その代表が「関扉」であると説く。

何事にも上方は真面目だが、江戸には洒落という美学がある。この解明には、イヤホンガイドが役に立つのである。それは、「関扉」にイヤホンガイドを利用すると、よくわかるであろう。イヤホンガイドは、文章では云い尽せない洒落の世界にも視野を上げようと努めているが、それが「目で観る」というキャッチフレーズの意味ということになる。



## 昭和四十年代前後の大阪の芝居模様（歌舞伎篇（上））



中座

文芸演劇評論家 河内厚郎

江戸時代から四世紀近く芝居町に櫓を揚げた道頓堀五座（中座・角座・浪花座・弁天座・朝日座）はすべて消滅。その中でも昭和初期まで西日本で最高位にあった芝居小屋で、平成十一年に惜しまれつつ廃座し、その三年後に爆発炎上した中座（中之芝居）の、棧敷席の欄干は福井県丸岡町に寄贈され（筆者が橋渡しをした）看板は松竹が手元に残したと聞く。

昭和三十三年からミナミの玄関口に偉容を誇った新歌舞伎座の建物も取り壊されることになり、劇場の名称と機能は上六（上本町六丁目）のビル内に移った。大阪市内で育った男子の中には新歌舞伎座の建物を大阪城だと思いきまされて幼少年時をすごしたケースが少なからずあるというウソのようなホントの話があるけれども、大阪松竹座リニューアルの際は華麗なファサードを残すよう建築家たちが声をあげたのに、新歌舞伎座のほうは同じ様に思わないのだろうか。





初代鷹治郎と四代目歌右衛門の墓  
(大阪市中央区中寺、常國寺)

昭和の後半期、大阪での大型興行といえは新歌舞伎座であった。初代中村鷹治郎三十三回忌や十一世片岡仁左衛門三十七回忌といった追善興行、十一代目團十郎や八代目坂東三津五郎や三代目実川延若、今の富十郎・菊五郎・幸四郎・團十郎等の、関西での襲名興行はいずれも新歌舞伎座で行われた。平成の世に変わってからは、三代目中村鷹治郎(現・坂田藤十郎 平成三年一〜二月)、中村福助(平成五年五月)、中村翫雀・扇雀(平成七年一月)等の襲名は中座へと場所を移し(翫雀・扇雀の襲名月に阪神大震災が起り、全壊した西宮の自宅を背に道頓堀へかけつけ、日経新聞に劇評を載せたのが懐かしい)、その後は平成九年に新装開場した大阪松竹座へと移っていく。

新歌舞伎座では昭和四十四年から毎年五月に「顔見世」が行われた。初年度は市川寿海と市川左団治(三世)という東西の芸術院会員の顔合わせで『楼門』が出たが、寿海休演で三津五郎(八世)が代役した五右衛門を観ている。四十六年顔見世の『籠釣瓶花街酔醒』では、松本幸四郎(先代)の次郎左衛門、中村歌右衛門の八ツ橋に、仁左衛門(十三世)が栄之丞をつきあった。同年二月の十一代目仁左衛門三十七回忌追善興行では、仁左衛門の長男である片岡秀公が片岡我當を、大谷ひと江が嵐徳三郎を襲名。このとき先代勘三郎の平作と仁左衛門の十兵



二代目・三代目実川延若墓所  
(大阪市中央区中寺、圓妙寺)

衛、片岡我童のお米で『伊賀越道中双六』『沼津』を観ている。ほかに『助六』の白酒売や、大川橋蔵の弁天小僧に『極楽寺山門』までつきあった日本駄右衛門など、東京では見られぬ役々を新歌舞伎座で演じた十三世仁左衛門が、『大石最後の一日』を好演した四十七年四月の興行は、人氣急上昇中の孝玉(孝夫と玉三郎)コンビの関西初お目見得となり、玉三郎の養父、守田勘弥が江戸前のお役佐七を見せてくれた。翌五月は扇雀(現坂田藤十郎)・猿之助・訥升(九世澤村宗十郎)・吉右衛門ら中堅・若手の一座が評判よく、このときの扇雀・猿之助コンビが翌年から新歌舞伎座の正月興行を担当した。

一方、松竹新喜劇の隆盛で八年ほど歌舞伎から遠去かっていた中座では、四十九年から実川延若(三世)の奮闘公演が始まった。公募したりクエスト狂言の中から、初年度は『夏祭浪花鑑』(嵐璃珪の義平次が車輪で面白かった)と『怪談乳房榎』、翌年は『伊勢音頭恋寝刃』を、いずれも通しに近い上演で気を吐いた。戦前からの長老俳優たちの多くが存命だったこともあり、上方式の演出が可能であった。四十九年五月には、ほとんど一日がかりで『小栗判官車街道』(扇雀・三津五郎・訥弁・田之助・我當・秀太郎)・演出・武智鉄二の通しを朝日座が敢行し、久々の『武智歌舞伎』が話題を集めた。朝日座は文楽のホームグラウンドであると共に、十三世仁左衛門や尾上菊次郎が昭和三十年代後半から四十年代前



二代目梅玉像(大阪市中央区中寺、妙徳寺)

片岡家墓所(大阪市中中央区中寺、薬王寺)



半にかけて、現・仁左衛門や坂東竹三郎ら当時の若手を盛り立てながら上方歌舞伎の灯を守った劇場で、四十九年八月の歌舞伎文楽合同公演では仁左衛門が久しぶりに「封印切」の忠兵衛を演じている(孝夫の八右衛門が出色であった)。

という具合に、昭和四十年代の後半は関西での歌舞伎人気が持ち直しかけた—と思いきや、五十年代に入ると再び冷えこんでゆく—歌舞伎座と中座で東西競演の『仮名手本忠臣蔵』(十一月)が鳴り物入りで上演された五十二年。五月の澤村宗十郎・藤十郎襲名の不入りに懲りた新歌舞伎座が顔見世をやめてしまい、この折の歌舞伎ファンの危機感が、関西で歌舞伎を育てる会(現在の関西・歌舞伎を愛する会)の結成と、初代中村吉右衛門一座以来五十五年ぶりという「船乗り込み」の復活(昭和五十四年)へとつながっていった。

次回は、その「船乗り込み」にまつわる話から。



初代富十郎墓所(薬王寺)



# 京都南座支配人に就任して

昭和五十五年、松竹株式会社に入社して、早いもので三十年になりました。

南座は、昭和五十九年の監事室勤務が出発点です。その年の九月、市川猿之助さんの通し狂言「義経千本桜」の「宙乗り」が、忘れられません。当時の宙乗りの装置は、電動でなく手動で、首の付け根と腰の二点を持ち上げるウインチ・滑車を前進させるウインチの三つで、三人掛りの仕事。お稽古で初めてウインチを回した時、想像を超える「重さ」に恐怖と不安に襲われました。しかし、恐怖と不安が吹き飛んだのは初日のお客様の拍手でした。お客様の拍手は、猿之助さんへ送られたものですが、舞台の進行に合わせ、ウインチを回している裏方にとっても価値千金で、お客様が舞台を支えていることを肌で感じる経験をさせて頂きました。

お客様あつての「お芝居」でございますが、劇場スタッフが、一丸となって良質の演劇を興行

し続けるのは、景気の動向は勿論、人材育成、地域との共生など様々な課題が、発生いたしました。人材の育成で言えば、当協会の「海外研修への助成」は、「百聞は一見に如かず。」と申しますが、演劇関係者、演劇に携わる皆さんのレベルアップに欠かせない、現場の活性化の大きな支えであると有難く感じております。

一方地域との共生ですが、大阪に勤務しておりました十年近く前の話になりますが、大阪新歌舞伎座の北浦さんから、「老人たちの面白い劇団がある」と新聞記事を見せられました。そこには、今東光さんが、「天台院」の住職として約二十三年間在住された大阪府八尾市。その町の老人たちが作った「八老劇団」が、紹介されておりました。「八十歳を越えるご高齢の皆さんが、次の舞台の主役をめざそうと毎日欠かさずお稽古するので、めっきり病院通いが減ってきた。」等の内容が、微笑ましいと共に、演劇が、地域



京都南座 支配人 飯島 義裕

コミュニティを活発にしている実例として記載されておりました。新歌舞伎座さんの発案で、関西地区として、この劇団を「助成」団体として推薦するまで、関係者との折衝に加われました事は、貴重な経験を頂戴したと感謝致しております。

演劇の公演を致しております、毎日何かが起こります。劇場だけで解決できる課題ならばよろしいのですが、知恵を出し合って、興行界全体で、情報を共有し問題解決に当たらなければ解決できない諸課題も随分とございます。当協会が設立されて四十年。諸先輩の志を思い、少しでも前進をめざして演劇興行協会の発展に貢献していきたいと気持ちを新たに致しております。

今後とも、演劇の健全な発展に向け努力致しますので、何卒、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

# 大阪松竹座支配人に就任して

この度、大阪松竹座支配人を拝命し六月より着任いたしました。昭和五十五年松竹に入社致しまして、道頓堀中座での団体営業を皮きりに南座での団体営業、その後演劇製作に移り松竹新喜劇を始めとする上方喜劇や上方歌舞伎、そしてOSKなど主に関西色の強い作品の製作に当たってきました。

私の入社致しました当時の道頓堀は東から朝日座・道頓堀東映・角座・中座・浪花座と劇場が並び「五座の櫓」と称された江戸時代から続く芝居町の面影が色濃く残っていました。正月やお盆になりますと、演劇・文楽・演芸・映画と並んだ劇場の前は人であふれ、当日券が何百枚もおもしろい様に売れて行きました。特に中座は藤山寛美さん率いる松竹新喜劇のホームグラウンドで連日大入り満員、劇場二階にある事務所がお客様の笑い声で大きく揺れていたのが強烈な

印象として残っています。

そんな道頓堀の一番西に立っていたのが大阪松竹座で「ジューズ」や「E・T」が上映される洋画チエーンのマスタール館でした。まっ白な洋式の外観が妙にかっこよく感じられたものです。場内もウエストエンドの劇場のように渋く品のある落ち着いた劇場でした。

時代は流れ、藤山寛美さんが亡くなられ、取って代わる様に歌舞伎が隆盛の時代を迎え道頓堀も大きく様変わりしました。

今日芝居町道頓堀の伝統を受け継ぐ唯一の劇場として大阪松竹座の責任は重大です。新開場の眼目である上方歌舞伎を始めとする充実した歌舞伎公演の提供、そして上方喜劇の灯を守るべく藤山直美さんや松竹新喜劇公演の定期的上演、最後に大正十二年の大阪松竹座開場趣旨の一つでもある「西洋風楽劇」の上演という観点か



大阪松竹座 支配人 牧原 広幸

ら夏冬の恒例となっておりますジャニーズ公演や平成十六年に五十五年ぶりに復活し以来毎年続けておりますOSK日本歌劇団の「春のおどり」等の音楽劇の上演と三つの柱を軸に進めると共に更に次代へ繋ぐ演劇を育てていきたいと考えております。私自身久しぶりの劇場勤務で不慣れではありますが劇場の皆と協力し合い良質の舞台とサービスでお客様に愛される劇場を目指し頑張る所存です。

どうぞご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

**(社)日本演劇興行協会 法人会員名簿**

平成22年12月現在(五十音順)

	会社名	代表者名	住所
関東	株式会社イヤホンガイド	代表取締役社長 久門 隆	104-0061 東京都中央区銀座3-14-1 銀座3丁目ビル5F
	有限会社大久保化学工業	代表取締役 大久保政彦	103-0008 東京都中央区日本橋中洲4-15
	歌舞伎座(松竹)	代表取締役社長 迫本 淳一	104-0061 東京都中央区銀座4-12-15
	NPO法人キッズエクスプレス21	理事長 竹井 純	104-0042 東京都中央区入船3-2-7第2明治ビル6F
	株式会社コマ・スタジアム	代表取締役社長 大隈 廣	160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-44-1 ハイジア9F
	サンシャイン劇場(松竹)	代表取締役社長 松本 康男	170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-4
	松竹衣裳株式会社	代表取締役社長 酒井 誠一	104-0041 東京都中央区新富2-2-8
	株式会社ショウビズスタジオ	代表取締役社長 橋本 幸喜	104-0061 東京都中央区銀座1-28-5
	新橋演舞場(松竹)	代表取締役社長 迫本 淳一	104-0061 東京都中央区銀座6-18-2
	株式会社タカサゴ	代表取締役社長 新倉 康榮	171-0031 東京都豊島区目白1-1-1
	東京演劇かつら株式会社	代表取締役社長 川口 清次	103-0006 東京都中央区日本橋富沢町3-4
	帝国劇場(東宝)	代表取締役社長 高井 英幸	100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1
	シアタークリエ(東宝)	代表取締役社長 高井 英幸	100-8415 東京都千代田区有楽町1-2-1
	藤浪小道具株式会社	代表取締役社長 湯川 彰	111-0032 東京都台東区浅草6-2-6
	株式会社紅三	代表取締役社長 阿部 晋悟	135-0002 東京都江東区住吉1-17-20 住吉ビル7F
	株式会社明治座	代表取締役社長 三田 芳裕	103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1
株式会社WOWOWコミュニケーションズ	代表取締役社長 井上陽二郎	220-8080 神奈川県横浜市みなとみらい3-3-1 三菱重工横浜ビル18F	
中京	株式会社中日新聞社	代表取締役社長 白井 文吾	460-8511 愛知県名古屋市中区三の丸1-6-1
	株式会社御園座	代表取締役社長 長谷川栄胤	460-8403 愛知県名古屋市中区栄1-6-14
関西	大阪松竹座(松竹)	代表取締役社長 迫本 淳一	542-0071 大阪府大阪市中央区道頓堀1-9-19
	京都南座(松竹)	代表取締役社長 迫本 淳一	605-0075 京都府京都市東山区四條大橋東詰
	株式会社新歌舞伎座	代表取締役社長 川瀬 昌弘	543-0001 大阪府大阪市天王寺区上本町6-5-13
九州	株式会社博多座	代表取締役社長 芦塚日出美	812-8615 福岡県福岡市博多区下川端町2-1

**(社)日本演劇興行協会 賛助会員名簿**

平成22年12月現在(五十音順)

	会社名	代表者名	住所
関東	株式会社アズミコーポレーション	代表取締役 小林 康博	333-0866 埼玉県川口市芝4-7-24
	有限会社アトリエ・カオス	代表取締役 田中 義彦	156-0056 東京都世田谷区八幡山1-1-15
	株式会社エス・ピー・ディ明治	代表取締役社長 井田 浩司	103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 明治座アネックスビル
	演舞場サービス株式会社	代表取締役社長 岡副 昭吾	104-0061 東京都中央区銀座6-18-2
	株式会社歌舞伎座	代表取締役社長 大谷 信義	104-0061 東京都中央区銀座7-15-5 共同ビル5階
	歌舞伎座事業株式会社	代表取締役社長 大谷 信義	104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 東京建設会館内
	歌舞伎座舞台株式会社	代表取締役社長 金田 栄一	104-0061 東京都中央区銀座7-15-5 共同ビル4階
	有限会社菊地商事	代表取締役 菊地 正夫	162-0834 東京都新宿区北町40番地
	熊谷印刷株式会社	代表取締役社長 岡田 智夫	104-0045 東京都中央区築地3-3-12
	サンピアンかわさき	館長 足立 公司	210-0011 神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2
	新橋演舞場株式会社	代表取締役会長 岡副 昭吾	104-0061 東京都中央区銀座6-18-2
	成旺印刷株式会社	代表取締役社長 中田 久士	105-0014 東京都港区芝2-1-28
	株式会社総合医学社	代表取締役 渡辺 嘉之	101-0061 東京都千代田区三崎町1-1-4



## 賛助会員名簿

	会社名	代表者名	住所
関東	株式会社テクノ三紫	代表取締役 小野 雅司	103-0008 東京都中央区日本橋中洲4-15-401
	東急パーキングシステムズ株式会社	代表取締役社長 田村 英雄	108-0023 東京都港区芝浦4-3-4 田町きよたビル5F
	東京昭和運輸株式会社	代表取締役 岩田 敏雄	187-0004 東京都小平市天神町2-59-1
	東京帝国警備保障株式会社	代表取締役社長 島居 眞文	170-0005 東京都豊島区南大塚3-47-1 オーエスビル6F
	株式会社東宝コスチューム	取締役社長 國井 祐嗣	151-0043 東京都渋谷区笹塚3-22-3
	株式会社東宝サービスセンター	代表取締役社長 守屋 俊男	100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル
	東宝舞台株式会社	代表取締役社長 島田 達也	339-0025 埼玉県さいたま市岩槻区釣上新田1048-1
	東宝不動産株式会社	代表取締役社長 八馬 直佳	100-0006 東京都千代田区有楽町1-5-2
	社陵印刷株式会社	代表取締役社長 大野 志郎	112-0002 東京都文京区小石川13-35-13
	株式会社宝円堂	代表取締役 阿多 亨	104-0041 東京都中央区新富1-5-5
	有限会社ホー・ユー企画	代表取締役社長 宇佐美 肇	171-0021 東京都豊島区西池袋3-33-24-401
	株式会社宮澤商店	取締役社長 宮澤 武	111-0032 東京都台東区浅草6-5-1
	明治座事業株式会社	代表取締役社長 三田 芳裕	103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-3
	明治座舞台株式会社	代表取締役社長 三田 芳裕	103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-3
	株式会社山崎製作所	代表取締役社長 山崎 宏治	340-0002 埼玉県草加市青柳2-19-7
株式会社よどや	代表取締役 森 眞一	111-0035 東京都台東区西浅草3-12-8	
中京	鵜飼興業株式会社	代表取締役社長 神谷 武彦	460-0008 愛知県名古屋市中区栄1-6-14 御園座会館6F
	株式会社エーアンドブイ	代表取締役 森 恭一	464-0846 愛知県名古屋千種区城木町2-98
	株式会社華新	代表取締役社長 土井 信策	468-0053 愛知県名古屋天白区植田南3-309 華新ビル
	有限会社藤井照明	取締役社長 藤井 幹伸	464-0075 愛知県名古屋千種区内山3-1-15
	株式会社山二製材所	代表取締役 児玉 正光	454-0012 愛知県名古屋市中川区尾頭橋通1-25
関西	株式会社関西再資源ネットワーク	代表取締役社長 福田 裕司	592-8331 大阪府堺市西区築港新町4丁2番5号
	有限会社関西照明設備研究所	代表取締役 河本 康夫	552-0007 大阪府大阪市港区弁天3-15-9
	佐川印刷株式会社	代表取締役 木下 宗昭	617-0003 京都府向日市森本町戌亥5-3
	三精輸送機株式会社	代表取締役 中川 実	564-0063 大阪府吹田市江坂町1-13-18
	株式会社高津商会	代表取締役社長 高津 博行	616-8163 京都府京都市右京区太秦西峰岡町9-7
	たつた舞台株式会社	代表取締役 立田 豊	542-0071 大阪府大阪市中央区道頓堀1-9-19 大阪松竹座
	学校法人野辺野学園	理事長 山中 理	514-1121 三重県津市久居二ノ町1855
	野田福	代表取締役 野田 達子	560-0026 大阪府豊中市玉井町1-10-21
	株式会社プログレ	代表取締役社長 山本 進	530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル
	山田不動産株式会社	代表取締役社長 山田 崇博	604-8414 京都府京都市中京区西ノ京小倉町22
新潟	愛商新潟有限会社	代表取締役 長谷川美子	955-0041 新潟県三条市三竹1-1-33
	株式会社つばめブックセンター	代表取締役 武田 大介	959-1200 新潟県燕市大字東太田2918
	有限会社トヤマコーポレーション	取締役社長 外山真智代	955-0852 新潟県三条市南四日町4-1-9
	有限会社フジテツ	代表取締役 藤森トモ子	959-1264 新潟県燕市大字八王寺26-2

## (社)日本演劇興行協会 特別会員

平成22年12月現在

	会社名	代表者名	住所
	財団法人都民劇場	理事長 河竹登志夫	104-8077 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル6F

# 社団法人 日本演劇興行協会・加盟劇場名簿

(五十音順)

	劇場	経営法人	支配人	住所	電話	定員
東京	歌舞伎座	松竹株式会社	建替え中(2013年春 完成予定)			
	株式会社コマ・スタジアム	木村 慎	160-0021	東京都新宿区歌舞伎町2-44-1	03-3202-2511	
	サンシャイン劇場	松竹株式会社	松井 理	170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-4文化会館	03-3987-5281	832
	新橋演舞場	松竹株式会社	西村 幸記	104-0061 東京都中央区銀座6-18-2	03-3541-2600	1,428
	帝国劇場	東宝株式会社	田島 尚史	100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1	03-3213-7221	1,917
	シアタークリエ	東宝株式会社	山崎奈保子	100-0006 東京都千代田区有楽町1-2-1	03-3591-2400	611
	明治座	株式会社明治座	北村 純一	103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1	03-3660-3939	1,368
中京	中日劇場	株式会社中日新聞社	鈴木 泰彦	460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1中日ビル	052-263-7190	1,444
	御園座	株式会社御園座	谷本 公成	460-8403 愛知県名古屋市中区栄1-6-14	052-222-8210	1,656
関西	新歌舞伎座	株式会社新歌舞伎座	大竹 進	543-0001 大阪府大阪市天王寺区上本町6-5-13	06-7730-2121	1,453
	大阪松竹座	松竹株式会社	牧原 広幸	542-0071 大阪府大阪市中央区道頓堀1-9-19	06-6214-2211	1,033
	南座	松竹株式会社	飯島 義裕	605-0075 京都府京都市東山区四条大橋東詰	075-561-1155	1,086
九州	博多座	株式会社博多座	山本 学	812-8615 福岡県福岡市博多区下川端町2-1	092-263-5858	1,490



発行日 平成22年12月

編集・発行 社団法人 日本演劇興行協会事務局

発行所 東京都中央区銀座1丁目27番8号セントラルビル  
TEL. 03(3561)3977